

おれんじニュース

No 2 5 1

2011年2月号



12月18日 福万山。この山ではめずらしい霧氷がみられた。

★集会・委員会・行事のお知らせ★				★山行の一步は会合から★		
	2月			3月		
運営委員会	8日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	8日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	4日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	4日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	22日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	22日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



馬酔木の赤い実に霧氷がうつくしい

福万山の
あれこれ集



1時間半くらいで頂上。お昼ご飯にははやいね



12月18日
福万山に登った時の
由布岳のながめ
美しい雪化粧でした。



松の木の霧氷もはじめてでした。



草もみじ、ならぬ草霧氷？ススキ？



12月18日
帰りのバスの中
からの景色
美しい日没でした。



2月の山行計画

部	山行部	ひまわり部	技術研修部
月・日	6日(日)	25日(金)	27日(日)
山名 (行事)	英彦山	岩屋山	かわらだけ うしきりやま 香春岳・牛斬山
地図	英彦山		金田
集合時間	諫早駅 6:00 西諫早駅 6:10	諫早駅 7:57 西諫早駅 8:01	諫早駅 7:00 西諫早駅 7:10
帰着時間	18:00	16:30	18:00
歩行時間	5時間程	4時間程度	4時間程度
難易度	中級健脚	初心者	中級
交通手段	マイクロバス	JR利用	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り		有り
参加費	5000円	交通費のみ	5000円
申込期限	定員になり次第	当日まで	定員になり次第
集約	田中	江崎	佐原
備考	霧氷がみれますように！	今回はどのコース？	展望の稜線歩きと 石灰岩の奇峰をめざす。
感想文提出	2/15	3/4	3/8

技術研修部より

1月29日(土) セルフレスキュー(JR西諫早駅9:30集合)

3月26日(土) セルフレスキュー(JR西諫早駅9:30集合)





3月の山行計画

部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部
月・日	3月2日(水)	3月27日(日)	4月1日(金)
山名(行事)	久連子岩宇土山	尺岳	とけん山
地図	椎原	徳力	
集合時間	JR諫早駅 6:00 JR西諫早駅 6:10	JR諫早駅 7:00 JR西諫早駅 7:10	諫早駅前8:50発、島鉄バス
難易度	やや健脚	ファミリーハイクの山	ゆっくり歩き
帰着時間	19:30	18:30	
歩行時間	6時間位	4時間	
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	バス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無しかも	有り	有り
参加費	5000円	5000円	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	
集約	佐原	田中	江崎
備考	美しいフクジュソウを眺めに行きます	桜の開花に合わせています。	お花見です
感想文提出	3/8	4/5	4/10

「連絡」 1/30の城山山行はマイクロバスを予定しています。駅裏ロータリー8:00
西諫早8:10です。参加費1800円です。



12月・1月の山行報告

12月18日(土)

福万山 (1235.9m)

(参加者) 1班 岩田 松尾 林田 山下 下釜 田中(静)
2班 川原 佐原 鎗水 川内 森(寿)

(行程) 5:50 ロータリー～ 6:05 西諫早駅～ 7:35 金立～9:00 登山口～ 10:20 福万山山頂 10:35 下山 ～ 11:30 昼食 11:50～12:00 登山口～13:10 乙丸温泉～ 15:40 サッポロビール日田工場～紅乙女～18:50 西諫早

(感想) 今日は納山登山で福万山(大分)でした。金立でいつものように朝食をとった後、M氏司会のもと高速を走り、目的他へ向かう。由布高原別荘地を通過する時、素敵なコテージ、優雅な空間に溜息が出る。道端の雪に歓声をあげながら、アイゼンを準備して来なかったことに気づき内心うろたえてしまった。冬山の必需品であるアイゼンを忘れるとは恥ずかしく小さくなっていた。幸い今回は装着する事無く終えたが・・・反省！



さあ、登山開始。ひたすら登り、笹をかき分けのヤブこぎだ。尾根はまだ？馬の背は？などなど言いながら登る。すると霧氷の世界が現れた。ススキや松の樹氷が見事な美しさを見せてくれた。白い樹氷に覆われた木に赤い実が可愛らしく、まるでクリスマスツリーのようなだった。福万山は二等三角点。標識は半分に分かれておりハッキリしなかった。それではと石で応急補強して記念撮影。山頂から見る霧氷が真っ白い世界をなしていた。そのそばで自衛隊の日出生台演習場から聞こえてくるドカーンと大砲(?)の音に時折驚かされた。下りは道がぬかるみ滑り易いので用心しながら歩いていたら、前を行くSさんが、危ないよと注意したとたん滑りビックリ。怪我がなくよかった。

お弁当をだいぶ下った明るい樹林の中で摂った。気がつかなかったが、回りに栗の木があり、落ちていた栗のイガの被害にM氏があった。山行も終わり次なるは温泉へ。

車窓よりうっすら雪化粧の由布岳が見えた。

温泉でゆっくり汗と疲れをとり次はビール工場見学。



美しい案内嬢の後を、登山靴の汚れを気にしながら続く。(落ちた土を後から掃除していたそうで申し訳ありません) 見学後は試飲へ。おつまみ付き一人三杯までと戴き美味しかった。次なる目的地、もぎたて柿の販売所は残念ながらもう柿は売れてしまっていて、なかった。今回は更に紅乙女酒造に寄ることとなった。

今年の納山登山は美しい霧氷と美味しいビールと焼酎で楽しかった(笑) いつもながら魅力ある山々と楽しい計画して戴きありがとうございます。今回の会

計さんはぎりぎりの予算のなかご苦労様でした。来年も元気で楽しい山行が出来るよう健康に気をつけて頑張りましょう！！

(田中 静香記)



1月1日(土)

初日の出参拝 御館山(99.9 m)

(参加者) 川原 兵庫 久保 山下 下釜 鎗水 田中(静)
朝まだ暗い中、ヘッドランプをつけて御館山広場の東屋
に向かう。

年末からの雪がかなり積もっており、サクサクと新雪が心地よい。

6時45分 誰もいないと心細く思っていたら久保さんが1番乗りだったらしく暗い中から声がかかり一安心。それから一人また一人と仲間が集まる。

[あけましておめでとうございます!]と声をかけあう。展望台での初日の出を待つ間、まずは乾杯。

兵庫さんの角煮柔らかく美味しかった。下釜さんのお煮

しめ、山下さんのおせちも美味しかった。

7時30分 初日の出を見ることができました!その後神社に参拝。

「今年も怪我なく元気に山に登れますように!!」
続きの宴は広場の東屋で。

兵庫さんがブルーシートを風除けに張って下さったおかげで寒くなく、酒がすすみ、話も弾んだ。私はお先にほろ酔い状態で失礼した。

今年もオレンジがますます発展しますように。

田中 静香



2011年1月4日(火)

轟から小松尾公園、林道から金泉寺へ(自主山行)

(参加者) 田中(静) 松園 山下
轟キャンプ場駐車場 10:20—銀嶺ロード—大渡橋
11:30—小松尾公園—林道、金泉寺登り口 12:10—昼食—12:30 スタート—金泉寺 13:15—13:35 出発—大渡橋 14:30—轟キャンプ場着 15:05

(感想)御館山を一人で歩いてたら、まだ正月休みだという田中さんにばったり出会った。

さっそく多良岳、金泉寺へ行って見ようという事になった。準備のため一旦、家に帰ってたら松園さんに会っていっしょに行くことに。(心強い仲間を得て山下、一安心)

まずは夏場ではないので楽々駐車場の轟キャンプ場に(この時期無料で駐車できる)。ここからは銀嶺ロード歩き。



小松尾公園を登って林道へ。ここから金泉寺への登り口のお地蔵様。松が活けてあった。

ここは危険な渡りがあると言われたが注意していけば大丈夫。道案内のボードも所々に点在している。轟峡に沿っては、いるが少し山の中を登ったり下ったり、結構ハードである。そして小松尾公園への入り口、大渡橋まで1時間ちょっとかかった。ここから小松尾公園はまえに歩いた事がある。最初の渡渉する場所には3本程の木橋が渡してあった。

誰か知らないが市議の人がこのあたりの整備に力を入れてるらしい。ありがたい。赤い矢印の道案内もあってとても解りやすい。樹のネームプレートもあちこちに見られる。

しかし、今日おどろいたことは小松尾公園の入り口あたりから雪がすごかったこと。

登りつめた林道は積雪8センチ。車の轍は一台のみ。

風があたらなところで昼食。そこから登る事1時間。深いところではふくらはぎまでの積雪をラッセルしながら登るのはきつかった。松園さんに山下のふくらはぎはラッセルむきにできているって言われて？これってほめ言葉かな？

こんな日でも金泉寺に来てる人はけっこういて黒木からの登山者が多かった。

六地藏あたりは腰までの雪だったと聞いた。帰りは金泉寺への短距離で来れるルートを下り、そこから轟への下り口を探して下りてみた。ここもはじめてのルートだった。

積雪をクッションがわりにトントン下りたので金泉寺から1時間で大渡橋まで下りた。

ここからは今度は銀嶺ルートを歩かず車道をキャンプ場まで歩いて行った。

約5時間の訓練、楽しかった。松園さん、田中さん、山下に付きあってくれてありがとうございました。
(山下記)

1月9日(日)

多良岳金泉寺初詣

<参加者> (健脚組) 福岡、岩田、久保、山下、田中し、山崎(元会員)
(ゆっくり組) 中須賀、兵庫、鎗水、佐藤、佐原、山口、中村、下釜、林、
田中ひ、森ま、 計17名

<感想> 今年の初登りとあって西諫早を16名が4台の車に分乗して出発。I氏は大村から直行し黒木で合流とのこと。八丁谷駐車場には他に1台あり、3人連れのパーティが八丁小屋方向に向かっている。舞岳か経ヶ岳へ登るのであろうか。



入念なストレッチの後10時登山開始。年末からの大雪は、林道の橋の部分では凍てつき滑りやすい。バランスをとりながら注意して歩く。トイレのある八丁杉入り口でアイゼンをつける。アイゼンを持参していない人一人。全員持参でないのは残念。

しばらくは雪があつたり無かつたりで、かえってアイゼンでは歩きにくい。中須賀CLが先行の健脚組と無線で雪の状況を確認しアイゼンをはずす。しかし登るにつれ雪も増えてき、先行組よりアイゼン着用の指示で、またアイゼンを着ける。

アイゼンを持参してないSさんと、アイゼンは持参しているが装着が困難で着けてないMさんは登りづらい。途中「登りのH」と呼ばれるHさんがSさんにアイゼンを貸す。お陰でSさんスムーズに登りだす。やはりアイゼンを着けていると安心するとのこと。

純白の雪の中を歩くのは気持ちが良い。しかしこんなに雪深い多良岳は初めてだ。

登りのHさんもやや苦戦か。Mさんは相変わらず装着しない。ペースが遅くなる。

昨年暮れからの大雪の後であるにもかかわらず、アイゼンを用意しなかったのは、経験豊富なSさんにしては、ちょっと状況判断が甘かったのだろうか。

また、アイゼンの不具合で、装着が一人ではしばらく、他の人の助力も必要なため、再々の装着指示にも着けなかったのは、会員に手間を掛けたくないと思っただけのことかも知れないが、メンバーが協力して一体になることこそ、良いパーティになれることだと思う。

予定を大幅に遅れ、12時半やっと金泉寺小屋到着。多良岳登山は断念。

早速今年の山行の安全を祈念して金泉寺に参拝。お賽銭を上げ、鈴を鳴らそうとしたが鈴は無い。そうか金泉寺は神社じゃなく、お寺だったのかと自分の迂闊さ加減に苦笑する。



昨年は金泉寺小屋のぜんざいをご馳走になったが、今年は会で材料を持ち込み、作るようになったそうで、漬け物なども含め昨年にも増しておいしくいただく。

小屋のストーブで暖をとりながら、健脚組の帰りを待つ。

1時過ぎ、中須賀CL携帯へK氏滑落と一報があり、皆一瞬凍り付く。詳細は不明だが無事を祈るのみ。やがてYさんが連絡に来る。多良岳から本多良へ向かう途中、六体地藏へ下る道の反対側に30メートル以上滑落。K氏は見えないが返事はある。救助のロープが必要とのこと。すぐさま小屋管理人の富永氏がロープや毛布をリュックに詰め、Yさんを伴って飛び出す。その行動の素早いことに、山の男の神髄を垣間見たような気がする。また連絡に来たYさんが空身で戻ろうとすると、リュックは置くな、着けている方が転倒した時などは、より安全だとアドバイス。これは大事なことで肝に銘じておく。ゆっくり組のY氏も、当日の救助役でロープを持参しており、後につづく。

次にF氏が、K氏を探そうにも谷に下りて行けない。救助は困難と連絡に来てまた戻る。

2時下山予定であったが、皆心配して金泉寺小屋で待機することにする。K氏とは接触できたであろうか、この雪山の中大丈夫であろうかと思いは同じだ。だが携帯も無線も通じにくいと、情報はなかなか分からない。しかし遅くなれば下山道も凍るかも知れない。すると事故の恐れもある。これらを考慮してゆっくり組は一応3時下山することに決める。

救助に向かったY氏と、小屋で待機する中須賀CLを残し、後ろ髪を引かれる思いで、ゆっくり組は3時過ぎ下山をはじめた。5時無事駐車場着。下山途中Yさんが自宅に連絡、ご主人に車を依頼していたため、駐車場で丁度一緒になり、メンバー9人が2台の車で、揃って帰ることができた。Yさんの旦那様、ありがとうございました。

救出に尽力された皆様お疲れさまでした。またK氏の一日も早い回復をお祈りいたします。

(兵庫 芳隆 記)

2011年1月15日(土)曇り後晴れ

黒木梅園植樹祭

<参加者> 坂口 川原 佐原 兵庫 中里 下釜 林田 松園 計8名

他の会：朝霧(1名) あゆみ(4名) こもれば(1名) 東部(2名) 南稜(3名) ミラン(2名) 欠席(カルチャー・ヘバルナ)

<行程> JR西諫早駅9:00→黒木10:00(植樹・祝宴)→14:00諫早着

<経過> 黒木の公民館を労山小屋として譲り受けたのは1978年だそうである。

その頃は県連傘下の登山クラブは16くらいあり、会員も500名を越していたとのこと。交通網が今ほど発達していなかった当時、労山小屋は登山学校の技術伝承や多良山系登山の基地として大いに活用されていた。社会情勢の変化に伴い、老朽化してきた小屋を利用する機会もなくなり、2000年8月に解体、テント場として整備したりもしたが、結局活用する機会もないまま近年は草ぼうぼうの荒地になってしまっていた。

小屋跡地をそのままにしておくのは地域の人達の迷惑にもなるため、理事会で活用法の検討を進めたところ梅園化案が浮上し、2010年の県連総会で承認された。

理事会内に植樹担当者を定め、2011年2月の植樹を目標に実際の作業が始まったのは5月からである。植樹担当に選任された事務局長の坂口氏の先導のもと、各会理事を中心



に月1~2回のペースで作業が進んでいった。草刈、根堀、除石、溝上げ、藪きり、草焼き、焼却灰の施肥等々、炎天下での作業は大変であったが秋には整地が進み、12月には植穴位置を調整するところまで進んだ。

梅ノ木の植生は根が動き出す前の1月が最適ということで、当初3月に予定していた植樹祭を急遽1月に変更して実施することになった。

<感想> 植樹祭に参加したのは総勢21名である。到着順に各自が焚き火や植樹に向けての準備に取りかかり、川原理事長による植樹祈願の後、各会代表によるじゃんけんで植栽の場所を決めた。欠席した会の分は他の会で分担し、受粉用の小梅も入れて全部で10本の梅ノ木を植えた。品種は「南高」と「豊後」。オレンジHCの梅は「南高」で左側の一番奥に当たり、川原さんのアイデアで、佐原さんが「菅公の梅」と立て札を書いた。植樹終了後は、女性理事達が準備したちゃんこ鍋とぜんざいも出来上がり、「出席できないから」とおにぎりや伊達巻の差し入れをしてくれたカ



ルチャーの塩田泰子理事のご馳走で全員が腹を満たした。もちろん運転手以外はお神酒付きである。

朝は小雪模様で危惧された天気も、祝宴の頃には晴れて空が明るくなった。

梅が実をつけるまでには3~4年にかかるそうだが、多良山系に登る労山の仲間には楽しみが一つ増えたことになる。坂口さん制作の「黒木梅園」という立派な看板を見ると、たまには足を止め



て自分達の会の梅を見に行きたくなるだろう。花の時期には花見に来るかも知れないし、下草を抜いて帰るかもしれない。もうひとつ、あゆみHCが雲仙の垂木台に植えて間引きされた山ぼうしも階段を登った右横に植えられている。

植樹祭は順調に済んだが、後は植樹後の手入れが待っている。根付くまでは皆で見守っていかなければならない。枯れないで育つことを願いながら帰路についた。(松園)



ねえ～マスタービールちょうだい？日田ビール工場にて。マスターになりきったMさん。



平谷越から中山越に向かう途中のそうめん滝



元日の初日の出をバックに御館山展望所



お正月早々できあがってしまった人々



多良権現にて健脚班のみ、左も9日



御館山展望所からの初日の出



金泉寺にてお参りする人々



12月16日舞岳から経が岳に上がったらみごとな霧氷だった。

おれんじニュースNo251	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.1.25
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



御館山の展望所までの道も
白い雪におおわれていた

12/31